

令和4年度 第41回全国高校生建築製図コンクール結果報告

製図コンクール運営委員会
委員長 森嶋 真一

第41回全国高校生建築製図コンクールに際して、東日本建築教育研究会の加盟校および加盟校以外の先生方から、校務ご多忙にもかかわらず絶大なるご協力を頂きました事を厚くお礼申し上げます。

1. 応募校数

応募校数		全日制		定時制		加盟校				加盟校以外			
						全日制		定時制		全日制		定時制	
2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021	2022	2021
46校	40校	41校	36校	5校	4校	40校	34校	5校	4校	1校	2校	0校	0校

2. 応募作品数

課題名	加盟校別	年度	学校数・作品数		全日制・作品数		定時制・作品数	
課題1	加盟校	2022	39校	100点	34校	88点	5校	12点
		2021	29校	72点	26校	68点	3校	4点
	加盟校以外	2022	2校	6点	2校	6点	0校	0点
		2021	2校	6点	2校	6点	0校	0点
課題2	加盟校	2022	8校	17点	8校	17点	0校	0点
		2021	8校	21点	7校	20点	1校	1点
	加盟校以外	2022	1校	2点	1校	2点	0校	0点
		2021	1校	1点	1校	1点	0校	0点
課題3	加盟校	2022	11校	27点	11校	27点	0校	0点
		2021	17校	38点	17校	38点	0校	0点
	加盟校以外	2022	1校	1点	1校	1点	0校	0点
		2021	1校	3点	1校	3点	0校	0点
課題4	加盟校	2022	3校	7点	3校	7点	0校	0点
		2021	7校	12点	7校	12点	0校	0点
	加盟校以外	2022	1校	3点	1校	3点	0校	0点
		2021	1校	3点	1校	3点	0校	0点
課題5	加盟校	2022	6校	11点	6校	11点	0校	0点
		2021	6校	13点	6校	13点	0校	0点
	加盟校以外	2022	1校	2点	1校	2点	0校	0点
		2021	1校	3点	1校	3点	0校	0点
応募校計		2022	176点		(加盟校：162点・加盟校以外14点)			
		2021	172点		(加盟校：156点・加盟校以外16点)			

3. 校内作品審査数の総計

加盟校別	年度	課題1	課題2	課題3	課題4	課題5
加盟校	2022	1,186点	256点	298点	15点	30点
	2021	876点	283点	381点	34点	24点
加盟校以外	2022	7点	2点	1点	4点	2点
	2021	10点	4点	5点	5点	3点
審査数計	2022	1,193点	256点	299点	19点	32点
	2021	886点	287点	386点	39点	27点

4. 審査について

(1) 賞の選出

- ①各課題最高作品を金賞とし、順次銀賞、銅賞、入賞とする。
- ②各課題において、定時制課程の参加作品から、入賞以上を選出する。

(2) 審査方法

①1・2次審査

- ア. 各委員が課題毎に4人1チームを編成し、「リレー方式」の審査を行う。(原図の複写図を委員の所属校に送付し、審査を行う。終了後、次の委員の所属校へ送付し順次、審査を行う)
- イ. 複写図を使用し、表題欄はカットする。
- ウ. チェックを書き込む。(委員毎にペン色を変えて書き込む)
- エ. 各課題参加数の1/3～1/5程度(最大20点程度)を目安に絞り、入賞作品の対象とする。
- オ. 審査は、「課題別審査の観点」に沿って行う。
- カ. 作品を相対的に比較する。

②最終審査

- ア. 審査は、集合方式の審査を行う。
- イ. 図面は、1・2次審査で使用した複写図面を使用する。
- ウ. チェックを書き込む(赤ペンで書き込む)
- エ. 入賞作品以外の作品で再度入賞以上に該当するものがないか確認する。
- オ. 最終決定を投票で行う。
- カ. 原図の確認を行う。

(3) 課題別審査の観点(参考)

①課題1「軒先マワリ詳細図」

- ア. 図が正確に描かれているか。(部材の大きさや厚み・金物等の形状・部材相互の距離等)
- イ. 明瞭な図であるか。(線の使い分け・線の始端から終端まで均一な太さ、濃さであるか)
- ウ. 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)
- エ. その他
松丸太に関して
・太鼓落しを表現する曲線はフリーハンドより定規使用の方が良い。
※ただし曲線がフリーハンドで描かれていても失格ではない。
野縁に関して
・位置は軒桁中心から測られているか。
天井に関して
・位置が製図例2-6に基づいているか。
線の使い方に関して
・下書き線が濃すぎないか。
・仕上げ線(断面線)が極端に太すぎないか。

②課題2「木造平家建専用住宅」

- ア. 平面図・立面図・断面図が正確に描かれているか。(教科書3章に準じているか)

- イ. 外構計画に工夫があるか。
- ウ. 文字や数字は明瞭で正確であるか。(抜けている、大きすぎる、小さすぎる、形状がバラバラ等)
- エ. 図面相互に違いがないか。
- オ. 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)
- カ. 製図規約を重視しているか。
- キ. その他
配置図兼平面図に関して
・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
・隣地境界線を実線で描く等、線の使い方を間違えていないか。
・床の仕上げを表現していないか。
立面図に関して
・全体的なバランスが良いか。
断面図に関して
・平面図に記された切断線の位置との違いがないか。

③課題3「木造2階建専用住宅」

- ア. 計画性を重視する。
- イ. 配置・平面・立面・断面・外構の計画に工夫があり機能的であるか。
- ウ. 構造的に無理がないか。
- エ. 製図規約に配慮しているか。
- オ. その他
設計主旨に関して
・主旨と計画に違いがないか。
配置図兼平面図に関して
・道路境界線、隣地境界線と建物の距離が抜けていないか。
・家族構成に対して、所要室や各室の面積に配慮しているか。
・将来的に高齢者に配慮した計画であるか。
・外構計画において高低差に配慮しているか。
・車と駐車スペースの大きさや表記方法に違いがないか。
・平面図に家具が記入されているか。
・平面図に柱や通し柱が抜けていないか。
・平面図に記された階段の段数は正確か。
・平面図に記された階段には、手すりを設けているか。
立面図に関して
・平面図との違いがないか。
・全体的なバランスが良いか。
断面図に関して
・切断位置が開口部を含む位置であるか。
・形状が不適切でないか。(異常に高すぎる、低すぎる)
・高さに関する寸法の記入があるか。

④課題4「木造平家建専用住宅」(CAD製図)

- 注意：2枚提出されているか。(1枚しか提出されていない場合は失格とする)
- ア. 敷地の形状や配置・外構計画に工夫があるか。
 - イ. 平面図は正確に描かれているか。(教科書第3章に準じているか)
 - ウ. 立面図に工夫があるか。(窓の形状や種類、位置等が平面

図と異なっていないか)

- エ. 断面図に工夫があるか。(屋根形状を生かした内部空間であるか)
- オ. 屋根の形状に工夫があるか。(機能を充たす屋根の形状であるか)
- カ. 図面相互に違いがないか。
- キ. 明瞭な図であるか。(線の使い分けが正しいか)
- ク. 製図規約を重視しているか。
- ケ. その他
 - ・ロフトを計画した場合は、それを平面図や断面図等に描いているか。
 - ・手書き表現で描かれているか。(CAD特有の表現のままでないか)

⑤課題5「木造2階建専用住宅」(プレゼンテーション作品)

注意：2枚提出されているか。(1枚しか提出されていない場合は失格とする)

- ア. プレゼンテーション・表現を重視する。(プレゼンテーションとつくりだされている作品が一致しているか)
 - ・パース, 模型, 説明, 着色等で判断する。
- イ. 製図規約については重視しない。
- ウ. その他
 - ・計画や表現はオリジナリティがあるか。
 - ・各図面間での整合性はあるか。
 - ・縮尺については重視しない。
 - ・表面に氏名等を記入しない。

(4) 令和5年度に向けて

①課題1「軒先マワリ詳細図」

令和4年度 新課程版教科書発刊に伴う、製図例の変更。

令和5年度 変更なし

②課題2「木造平家建専用住宅」

令和4年度 変更なし

令和5年度 変更なし

③課題3「木造2階建専用住宅」

令和4年度 変更なし

令和5年度 変更なし

④課題4「木造平家建専用住宅(CAD製図)」

令和4年度 変更なし

令和5年度 変更なし

⑤課題5「木造2階建専用住宅(プレゼンテーション作品)」

令和4年度 変更なし

令和5年度 変更なし

⑥共通事項 課題1～課題4の表題欄に課題番号を記入する。

5. 審査講評

(1) 課題1 軒先マワリ詳細図

金賞図面は、正確に描かれおり、線の強弱がしっかりしており明瞭な図で見栄えがある作品でした。また、文字も明瞭で全体のバランスも良くきれいな仕上がりでした。

金賞以外の図面についても、努力が見られる素晴らしい作品でしたが、引き出し線の角度不揃いや筆圧が弱く、残念ながら優秀作品にならないものがいくつか見受けられました。また、断面表現の理解がまだできていない作品があるように感じました。

【アドバイス】

次年度は、筆圧も考慮しつつ線の使い分けや作図のルールなどに注意し、正確な図面を書くことに重点をおいて、作図を試みてください。線は太ければいいというわけではなく、見えがかり線とのバランスや正確な寸法や間隔にも注意しながら描くことが大事です。

(2) 課題2 木造平家建専用住宅

2020年度から「基礎基本に立ち戻り、作図力や正確性を求めること」に主眼を置いた課題に変更しました。金賞図面は、一部記入漏れがあるが、線のメリハリがあり正確な表現がしっかりとされている作品でした。

金賞以外の図面についても、努力が見られる作品でしたが、配置図兼平面図においては、断面線の抜け、および表現方法の誤り、開口部の表現方法不足、線の使い分けの誤りなどが多くありました。また立面図では、壁、屋根仕上げ未記入(要項の確認不足)、文字の不揃い・線のメリハリ不足、平面図と窓の位置が異なるなどの不整合が見受けられ、正確性に欠ける作品も多く見受けられました。

【アドバイス】

次年度は、まずは要項と教科書の課題図をしっかりと読み込むところから始めてください。その上で、作図力や正確な図面表現をした作品を求めます。また、指導される先生からの指導助言をしっかりと受け止めて、作図を試みてください。

(3) 課題3 木造2階建専用住宅

金賞作品は、一部の寸法表記などでできていない箇所も見受けられるが、ウッドデッキを介して共用スペースと個人のスペースと空間を分けていること、老夫婦にも配慮した計画であることなど、新しい時代にある家族の住まい方を提案する作品でした。

金賞以外の図面についても、新しい時代に合う家族の住まい方を提案する図面が多く見られました。老夫婦の生活を充実させるように住環境を整えながらバリアフリーに対応させること、敷地の高低差を解消して創意工夫を凝らした外構計画、家族の存在を感じさせる吹き抜けやスキップフロアなどを生かした配置計画など、自宅での過ごし方や生活空間を創造し、家族のつながりを強く意識した図面となりました。一方で、各図面の食い違いや整合性のない図面が見られました。図面完成後に通り芯の記載ミスや開口部や切断位置のミスがないか確認しておくことが大切です。

【アドバイス】

今の時代を感じさせるアイデアがいくつもの作品に示されており、とても楽しく審査をすることができました。具体的にはワードと

しては、コロナ対策、インスタ映えスポット、サウナ、キャンプなどで、コロナによる制限を受けている社会に対する若者たちの一つの回答を感じることができました。次年度も生活様式の変化も意識した発想力豊かな「新しい住まいの在り方」の提案作品を求めます。一方で、建築の基本となる「図面の正確性」を意識しつつ、各図面と整合性のある作図を試みてください。

(4) 課題4 木造平家建専用住宅 (CAD製図)

本年度も金賞作品はありませんでした。

金賞以外の図面についても、課題2の審査講評と同じく、工夫された作品がある一方で正確性に欠ける作品も多く見受けられました。例えば、立面図で敷地外から表現(植栽など)されており、立面の外観デザインや窓などが確認できない作図表現、平面図と窓の位置が異なるなどの不整合が見受けられました。

【アドバイス】

次年度は、課題2同様にまずは、要項と教科書の課題図をしっかり読み込むところから始めてください。その上で、作図力や正確な図面表現をした作品を求めます。また、印刷後の図面表現(印刷設定)も配慮して作図を試みてください。

(5) 課題5 木造2階建専用住宅 (プレゼンテーション作品)

金賞作品は、レイアウトや配色にも工夫を凝らし、模型写真を取り入れるなど、設計のポイントが伝わるプレゼンテーション作品でした。また、異国情緒を感じられる場所として、ココロもカラダもリフレッシュできる空間として、快適な過ごし方を提案する作品でした。

金賞以外の図面についても、模型やパースを活用して作品の特徴をうまく表現しようと努力している図面が見られました。課題5でも課題3同様に、コロナ禍における生活スタイルの変化に対応できるように、個の癒し空間と、家族が集まる団らんをつなぐことを意識されていました。

【アドバイス】

平面プランには力を入れているが、立面図・断面図・パースの完成度が平面図ほどではないなど、まだまだ伸びしろがある作品が多くありました。表現方法も、作成した模型写真やパースが小さくレイアウトされている作品がありました。次年度は、こういう点を見直すことで、プレゼンテーションがもっと良くなっていくと思います。問題提起と解決策が明確なプランが多かったです。分かりやすいことはいいことではありますが、あまりにも短絡的な解決策ではなく、もうひと工夫したプランの提示ができるともっと楽しいプランができると思います。友達や先生とのディスカッションをして、より良いプランを出せるようにしていけるとっと自主設計が楽しくなると思います。

6. 入賞者

(1) 課題1 軒先マワリ詳細図

金賞

宮城県古川工業高等学校 建築科1年 高橋 りあ

銀賞

岐阜県立岐南工業高等学校 建築工学科1年
名知百合美

栃木県立小山北桜高校	建築システム科2年	星野 竜牙
愛知県立豊橋工科高等学校	建築デザイン・都市工学科1年	中村 友
銅賞		
宮城県古川工業高等学校	建築科1年	及川 紗矢
千葉県立市川工業高等学校	建築科1年	西野 遙
千葉県立市川工業高等学校	建築科1年	高橋 琴羽
山梨県立甲府工業高等学校	建築科1年	小澤 瑠希
神奈川県立神奈川工業高等学校 (定時制)	建設科2年	石見 伍
入賞		
長野県飯田OIDE長姫高等学校	建築学科1年	今井 颯斗
長野県飯田OIDE長姫高等学校	建築学科1年	今井 亮太
神奈川県立神奈川工業高等学校 (定時制)	建設科2年	相川 佑麻
神奈川県立横須賀工業高等学校	建設科1年	濱田 真里
長野県上田千曲高等学校	建築科1年	島袋イザベル
静岡県立浜松工業高等学校	建築科1年	戸田 凧紗

(2) 課題2 木造平家建専用住宅

金賞

愛知県立豊橋工科高等学校 建築デザイン科2年
中神 明日風

銀賞

岐阜県立中津川工業高等学校 建設工学科2年
水野 怜美彩

愛知県立豊橋工科高等学校 建築デザイン科2年
小泉 柚葉

銅賞

神奈川県立神奈川工業高等学校 建設科2年 木内 飛紅
岐阜県立岐南工業高等学校 建築科2年 松原 拓海

入賞

松山聖陵高等学校 建築科2年 野村 勇太郎
愛知県立豊橋工科高等学校 建築デザイン科2年

末吉 琶子

(3) 課題3 木造2階建専用住宅

金賞

山梨県立甲府工業高等学校 建築科3年 森山 龍河

銀賞

山梨県立甲府工業高等学校 建築科3年 飯沼 麻衣

銅賞

山梨県立富士北稜高等学校 建築デザイン系列3年次
天野 結衣

山梨県立富士北稜高等学校 建築デザイン系列3年次
後藤 来実

入賞

宮城県古川工業高等学校 建築科2年 松村 佳奏
岐阜県立岐南工業高等学校 建築科3年 高山 柊羽

愛知県立碧南工科高等学校 建築科3年 八谷 樹宇座

(4) 課題4 木造平家建専用住宅 (CAD製図)

金賞

該当なし

銀賞

愛知県立半田工科高等学校 建築科3年 坂下 雅哉

銅賞

愛知県立半田工科高等学校 建築科3年 森 夕梨音

松山聖陵高等学校 建築科2年

入賞

愛知県立半田工科高等学校 建築科3年 鈴木 将暉

松山聖陵高等学校 建築科3年 中泉 聖奏

松山聖陵高等学校 建築科3年 村上 慶

(5) 課題5 木造2階建専用住宅 (プレゼンテーション作品)

金賞

愛知県立一宮工科高等学校 建築科3年 岡村 咲奈

銀賞

松山聖陵高等学校 建築科3年 矢野 楽南

銅賞

山梨県立甲府工業高等学校 建築科3年 矢崎 大智

岐阜県立岐南工業高等学校 建築科3年 小森 健生

入賞

松山聖陵高等学校 建築科3年 板倉 路陽

7. 製図コンクール運営委員 (令和4年度)

佐藤 康雄 (神奈川工定) 高野 史晃 (宇都宮工)

王 大地 (甲府工) 中曽根 康 (前橋工定)

村井 和幸 (新津工) 笹崎 ひろみ (墨田工)

荒木 宏道 (館林商工) 畠山 弘幸 (石巻工)

萱沼 俊一 (白石工) 後藤 隆宏 (甲府工)

佐々木 英治 (向の岡工) 松原 昌忠 (葛西工)

渡邊 恵一 (宇都宮工) 首代 昌紀 (蔵前工)

森嶋 真一 (甲府工)

(敬称略・順不同)

令和5年3月17日

製図コンクール運営委員会